

41

浮世絵版画の殿堂

なか せん どう ひろ しげ び じゅつ かん

中山道広重美術館

恵那駅前（大井町中央通り）にある歌川広重の浮世絵版画を中心とした美術館。収蔵品は、世界でも数少ないといわれる歌川広重・溪斎英泉の揃物「木曾海道六拾九次之内」など約千点を数える。展覧会は、浮世絵版画を中心として毎月開催する企画展のほか、年に数回の特別企画展を行い、足を運ぶたびに異なった作品が鑑賞できる。また、浮世絵について楽しく学べる浮世絵ナビルームでは、浮世絵の重ね摺りを簡単に体験することができるなど、好評を得ている。恵那駅周辺再整備事業の締めくくりとして、街ににぎわいを取り戻すため建設。公募型プロポーザルによる設計を経て、2000（平成12）年着工。2001（平成13）年9月に開館した。



中山道広重美術館

ひとくちメモ

- 所蔵美術品は、市内在住の浮世絵収集家田中春雄寄贈の「田中コレクション」が中心。摺りの時期の早い、色鮮やかな浮世絵版画。また、当市出身の故吉村トシ子寄贈の日本画、洋画、茶わんなどのコレクション「吉村コレクション」も所蔵している。

関連
項目

・中山道（P8）・大井宿（P9）

42

岩村8百年の歴史を学ぶ

いわ むら れき し し りょう かん

岩村歴史資料館

岩村8百有余年の歴史を収める歴史資料館。岩村城のふもと、藩主邸跡の城址公園内に位置する。「享保岩村城絵図」「明和岩村城平面図」「佐藤一斎自讃画像軸」「八幡神社棟札」など県指定重要文化財の歴史的価値の高いものが多く展示されている。文化庁の歴史民俗資料館設置要領に基づく補助金を受け、1972（昭和47）年に開館。高床式、入り母屋造りの屋根、白壁の外観は城をイメージさせる。また、併設された草屋根風の民俗資料館は古い民家をそのまま移築したもので、先人の生活をしのばせる数々の民具は、生活の知恵と技を教えてくれている。



岩村歴史資料館

ひとくちメモ

- 展示品のうち「享保岩村城絵図」は、1718（享保3）年7月26日、岩村城が地震により、石垣44カ所、石段1カ所が崩壊する大きな被害を受け、同年12月に藩は被害状況を示す城絵図を添え、修復を幕府へ願い出た際の控えとして藩庁に保存されていたもの。

関連
項目

・岩村城跡（P6）・佐藤一斎（P11）

43

そば打ち体験のできる道の駅

そばの郷^{さと}らっせいみさと

雄大な中央アルプスの山々が展望できる三郷町内で、国道418号と主要地方道多治見恵那線の交差点にある道の駅。この道の駅の中心施設は、地元産のそば粉を使って、本格的なそば打ちに挑戦できる「そば打ち体験道場」。地元の女性グループ「みさとこまち」が、丁寧に指導する正統派の二・八そばは、初めての人でも安心して体験できると好評。地元三郷地区の昔言葉としてある「らっせい」の語尾を使い、もてなしの温かい言葉「寄らっせい、見らっせい、食べらっせい、ゆっくりせらっせい」により、素朴にもてなしのできる場所として2001（平成13）年に営業開始した。



そばの郷らっせいみさと

ひとくちメモ

- 「そばの郷」とは、三郷地区農業振興基本計画で、「そばによる地域振興計画」を打ち立て「そばの郷」づくりを目指したことによる。
- 地元産の野菜、そばからすみ、そば鬼まんじゅう、そば味噌、バリそばなど、そばを使った手づくり品の販売もしている。

関連
項目

44

日本一の木造水車のある道の駅

おばあちゃん市^{いち やま おか}・山岡

山岡町田代地内の小里川^{おりがわ}ダム湖畔で、2004（平成16）年に営業を開始した道の駅。この駅のシンボルである直径24mの巨大水車は、完成当時、木造水車として日本一の大きさを誇った。かつて陶土の製造に使われた水車を復元したもので、水の音・木の温もり・水車風景の安らぎなど、ダイナミックかつ癒やしの空間を提供。また、巨大水車の他のランドマークとして、小里川ダム水没地域の歴史を象徴する石造アーチ橋の「與^{うんぼし}運橋」と発電機を移築して展示している。この施設は、地域の農産物や各種特産品をPRしながら販売を行う地域活性化の拠点であり、地元で育てた新鮮な野菜や、手づくり品を求めて訪れる都市部の人々との交流の場となっている。



おばあちゃん市・山岡

ひとくちメモ

- 駅名に使用されている「おばあちゃん市」は、山岡町で高齢者の生きがいの場づくりとして始まった「市」の名称。2010（平成22）年に来駅者300万人を達成した。

関連
項目

・陶土（P32）・小里川ダム（P44）

45

清流と森に囲まれた道の駅

かみ や はぎ ふく じゅ さと
上矢作ラ・フォーレ福寿の里

国道257号の上矢作町木の実地内、森林の続く中にある洋館風の小さな建物が上矢作ラ・フォーレ福寿の里。1997（平成9）年に営業を開始した道の駅である。ラ・フォーレはフランス語で「森」という意味で、住民公募の作品の中から採用。ここは川のせせらぎと木々を渡る風により、心が深呼吸するような森の中のオアシス。駅の裏を流れる木の実川には親水公園があり、水遊びを楽しむこともできる。上流に架けられた長さ49mの木製の橋「せせらぎ橋」を渡れば、モンゴル村や森への散策が可能。また、物産販売館では喫茶コーナーのほか、ジネンジョやシイタケなど地域の特産物を販売している。



上矢作ラフォーレ・福寿の里

- **ひとくちメモ**
- 道の駅に設置してある大きな石のモニュメントは、大船神社にある弁慶スギをイメージしたもの。モンゴルの天才歌手オユンナさんが名誉駅長を務める。
 -
 -
 -
 -
 -

関連
項目

・福寿の里モンゴル村（P26）
・弁慶スギ（P33）
・大平の福寿草（P36）

46

遊牧民の生活を体験

ふく じゅ さと むら
福寿の里モンゴル村

草原の国モンゴルの移動式住居のゲルに泊まり、遊牧民の生活を体験できる上矢作町木の実地内にある施設。ゲルとは、木とフェルトで造られ、分解や組立が簡単にできる円筒形の移動式住居のこと。モンゴルから輸入した本物のゲルをベースにした建物が18棟あり、ベッドや家具など室内を朱色に彩色し、モンゴルの雰囲気漂う。ゲルをイメージした八角形の管理棟は、1階が売店でモンゴルの民芸品などのお土産があり、2階には展望風呂を設置。ここは上矢作町とモンゴル国との交流のさらなる発展と、交流人口による地域活性化を目指した施設で、2000（平成12）年に営業を開始した。



福寿の里モンゴル村

- **ひとくちメモ**
- モンゴル村の村長には、モンゴルの天才歌手オユンナさんが就任。上矢作町の宿泊できる施設にはモンゴル村のほか、上村川沿いに「コテージかわせみ」と「越沢コテージ」があり、特に夏季には多くの観光客でにぎわう。
 -
 -
 -
 -
 -

関連
項目

・上矢作ラ・フォーレ福寿の里（P26）
・大平の福寿草（P36）

47

誰でも滑れる日本最大級のスケートリンク

えな じょう クリスタルパーク恵那スケート場

400メートルスピードリンクと30×60メートルフルサイズの中央リンクを擁する日本最大級の屋外スケート場。JR武並駅から800メートルと交通アクセスもよく、無料駐車場も200台以上を完備、レンタルのスケート靴は2,000足を用意している。冬季はスケート場として一般滑走やスケート教室、各種大会ができ、冬季以外はインラインスケートやフットサルなどの軽スポーツ、各種イベントに利用できる多目的施設。駐車場ではストリートバスケットや壁打ちテニスなどができる多目的広場を備えている。2012（平成24）年1月、ぎふ清流国体スピードスケート競技開催。



クリスタルパーク恵那スケート場

ひとくちメモ

- ヘルメットや膝当てなど、プロテクター類は貸出無料。
- センターハウスにはラーメンやカレーなど軽食を取ることができる食堂もある。
- 冬季営業期間の日曜日には、武並町でふれあい販売所が開催されている。名物の五平餅や、豚汁、町内産の新鮮な野菜などを販売している。

関連
項目

48

天空の里の歌舞伎小屋

ごもうざ 五毛座

もともとは公民館兼地芝居小屋として1951（昭和26）年に建設された木造2階地下1階建、建築面積427平方メートルの建物である。内部には、両袖花道を備えた舞台があり、客席として平土間、1階・2階栈敷席が設けられている。また、公民館の設備としては、集会所の和室と大広間がある。2010（平成22）年1月15日に、旧飯地公民館として国の登録有形文化財に登録された。4月の第2日曜日、太田神社の例祭時に飯地五毛座歌舞伎保存会により歌舞伎公演が行われる（公演は隔年開催）。



五毛座での地歌舞伎公演

ひとくちメモ

- 飯地町には、五毛座と同じく2008（平成20）年10月23日に国の登録有形文化財に指定された旧恵那市役所飯地事務所庁舎とサイレン塔がある。
- 1954（昭和29）年の昭和の大合併時に建設されたもので、ともに市民生活に身近なランドマークとして親しまれている。

関連
項目

・地歌舞伎（P19）